



# 奈良県感染症情報

令和3年 第17週(4月26日～5月2日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL.0744-47-3183

## 今週の概要

- 新型コロナウイルス感染症防止策について
- 変異株 PCR検査の実施状況

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	4.50	(4.15) ↑	→	↑	→
2	RSウイルス感染症	3.29	(2.15) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	突発性発しん	0.44	(0.47) →	→	→	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	0.41	(0.53) →	↓	→	→
5	咽頭結膜熱	0.24	(0.26) ↓	→	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

定点把握感染症について、前週に続きRSウイルス感染症が県内全域に多く報告されており、他府県同様に、流行の傾向が見られます。RSウイルス感染症に対する特効薬はないので、予防対策をすることが大切です。手洗いやマスクの予防に加え、流行期には、なるべく人ごみに行かないようにします。  
 新型コロナウイルス感染症について、第17週の県内新規感染者数は598名と前週よりも減少したものの、高い水準で推移しています。全国における重症者数が、過去最多を更新しています。引き続き、人との接触を減らし、感染リスクを下げる行動をお願いします。

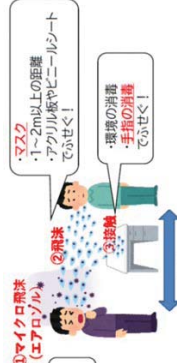
### ◆ 新型コロナウイルス感染症防止策について

新型コロナウイルス感染症といえば、すぐ重症になるイメージが強いかもしれませんが、実際には、**感染者の約9割が、無症状または軽症です。**  
 知らないうちに、**うつしたり、うつされたり** します。



**ふだん同居していない人とマスクをはずした状態での対面は、徹底的に避けましょう。**

3種類の感染経路があります。それぞれ感染経路を遮断しましょう。



出典: <http://www.pref.nara.jp/38233.htm> (奈良県)

### ◆ 変異株陽性者数・PCR検査の実施状況 ◆

検査実施週	変異株PCR検査数			変異株陽性者数			国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判別数のみ)			
	(内) スクアーム検査	(内) 疑い陽性	(内) 陽性陽性	(内) スクアーム検査	(内) 疑い陽性	(内) 陽性陽性	英国	南アフリカ	ブラジル	
3月5日～4月11日	323	235	88	207	126	81	99	0	0	12
4月12日～4月18日	176	169	7	149	144	5	81	0	0	2
4月19日～4月25日	212	212	0	173	173	0	54	0	0	7
4月26日～5月2日	246	246	0	222	222	0	0	0	0	0
合計	957	862	95	751	665	86	234	0	0	21

スクアーム検査: 検査可能な7歳以下の子供を対象に検査を実施(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)  
 疑い陽性: 変異株陽性患者の濃厚接触者を対象に検査を実施  
 陽性陽性: 変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののうち、ウイルス遺伝子のコピー数が少なく、解析不能であった数



# 奈良県感染症情報

令和3年 第18週(5月3日～5月9日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL.0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 変異株 PCR検査の実施状況

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	2.21	(4.50) ↓	→	↓	↓
2	RSウイルス感染症	2.03	(3.29) ↓	↑	↑	↑
3	咽頭結膜熱	0.21	(0.24) ↓	→	→	→
3	突発性発しん	0.21	(0.44) ↓	→	↓	↑
5	A群溶連菌咽頭炎	0.09	(0.41) ↓	→	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症の報告数は多い状態が続いています。1歳未満の乳児は、急性細気管支炎や肺炎等の重い呼吸器症状を起こすことがあり、また呼吸器や心臓に疾患のある高齢者も重症化しやすいので、感染を避けるための注意が必要です。

第18週の新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は559名と、非常に高い水準で推移しています。新型コロナウイルス感染症の9割は、無症状または軽症ですが、この状態でもヒトに感染させる可能性があります。基礎疾患のある方や高齢者では重症化し、命に関わることもあるので、引き続き感染防止対策をお願いします。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(郡中小児科医療)

外来患者数が増えています。RSウイルス感染症が見られる。感染源が不明な、幼児のコロナウイルス感染症症例があった。今後、感度は低いが、迅速抗原検査が必要になるのでしょうか？

#### 中部地区(南本内科子どもクリニック)

連休明けで外来数は一時増加。鼻汁、軽度の咳、短期の発熱等の感冒例が主。コロナを疑う例はほぼ一連休明けで外来数は減少。水痘など登録感染症は皆無。

#### 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

RSウイルス感染症の流行が続いている。乳児入院例も多い。また肺炎球菌性肺炎も散見される。ワクチン接種済の患児では比較的軽症に経過している。ノロウイルス胃腸炎は減少してきた。

### ◆ 変異株陽性者数・PCR検査の実施状況 ◆

検査実施週	変異株PCR検査数			変異株陽性者数			国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判別数のみ)			
	(内) スクアーム検査	(内) 疑い陽性	(内) 陽性陽性	(内) スクアーム検査	(内) 疑い陽性	(内) 陽性陽性	英国	南アフリカ	ブラジル	
3月5日～4月11日	499	404	95	356	270	86	217	0	0	14
4月12日～4月18日	212	212	0	173	173	0	56	0	0	7
4月19日～4月25日	246	246	0	222	222	0	19	0	0	3
4月26日～5月2日	190	190	0	179	179	0	0	0	0	0
合計	1147	1032	95	900	844	86	292	0	0	24

スクアーム検査: 検査可能な7歳以下の子供を対象に検査を実施(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)  
 疑い陽性: 変異株陽性患者の濃厚接触者を対象に検査を実施  
 陽性陽性: 変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののうち、ウイルス遺伝子のコピー数が少なく、解析不能であった数



# 奈良県感染症情報

令和3年 第19週(5月10日～5月16日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 奈良県の感染の特徴～家庭での感染～
- 変異株PCR検査の実施状況
- 4月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	4.53	(2.21) ↑	↑	↑	↔
2	RSウイルス感染症	3.44	(2.03) ↑	↑↑	↑	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.88	(0.09) ↑	↑↑	↑	↔
4	突発性発しん	0.44	(0.21) →	↔	↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.38	(0.21) ↑	↑	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↔**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症の報告数が増加しており、定点あたり報告数が多い状態が続いています。特に、中和保健所管内の報告数が多くなっています。感染経路は、新型コロナウイルスと同様、飛沫感染や接触感染です。日頃から、手洗い・咳エチケットを心がけましょう。

第19週の新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は501名と、非常に高い水準で推移しています。友人等との交流や、仕事仲間との接触が感染原因となっているケースが見受けられます。つついマスクを外して対面になってしまふ場面がめちですが、親しい仲間うちでも、対面になる時にはマスクを着けましょう。

### ◆ 奈良県の感染の特徴～家庭での感染～ ◆

令和3年3月1日～5月14日までの感染経路判明者のうち、46%が家庭での感染です。家庭での感染に注意が必要です。家族で「症状が出たら」でも、次の七か条を徹底して、感染リスクを低下させましょう。

1. 「空間的分離」。過ごす場所を分けましょう。
2. 「時間的分離」。過ごす時間をずらしましょう。
3. 同時に同じ場所にいるときは、お互いマスクをつけましょう。
4. 手が触れる共有部分の消毒、手指衛生をしましょう。
5. 部屋は、適湿度をあげて換気しましょう。
6. 衣服は洗濯、食器は洗浄しましょう。洗った後の手指衛生も忘れず。
7. コミは密閉して捨てましょう。

### ◆ 変異株陽性者数・PCR検査の実施状況 ◆

検査実施週	変異株PCR検査数		変異株陽性者数		国立感染症研究所におけるゲノム解析結果 (判明数のみ)		
	(R) スクリーニング検査	(P) 疑い陽性	(R) スクリーニング検査	(P) 疑い陽性	英国	南アフリカ	ブラジル
3月5日～4月25日	711	616	529	443	86	274	0
4月26日～5月2日	246	246	222	222	0	35	0
5月3日～5月9日	100	190	0	179	0	0	0
5月10日～5月16日	189	189	0	177	0	0	0
合計	1336	1241	95	1107	1021	309	0

スクリーニング検査:検査可能なCT値以下の検体を対象に検査を実施(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)  
 疑い検査 :変異株陽性患者の接触者を対象に検査を実施  
 解析不能 :変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののうち、ウイルス遺伝子のコピー数が少なく、解析不能であった数



# 奈良県感染症情報

令和3年 第20週(5月17日～5月23日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 変異株PCR検査の実施状況

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	9.76	(3.44) ↑↑	↑↑	↑↑	↔
2	感染性胃腸炎	3.18	(4.53) →	→	→	↔
3	突発性発しん	0.53	(0.44) ↑	→	↑	↓
4	咽頭結膜熱	0.35	(0.38) ↑	↑	↑	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	0.35	(0.88) ↓	→	↓	↔

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↔**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

RSウイルスの感染症の報告数が急激に増加しており、特に奈良市保健所、郡山保健所および中和保健所管内で多報告されています。感染予防のため日頃からこまめな手洗いを心がけましょう。

第20週の新型コロナウイルス新規感染者数は300名と前週の501名から減少しましたが、依然高い水準で推移しています。人との接触を減らし、感染リスクを下げるために緊急事態宣言発出区域をはじめ、感染が拡大している地域への不要不急の往来は控えましょう。またふだん同居していない人とマスクなしでの対面は徹底して避けましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### ■ 北部地区(田中小児科医院)

アデノウイルス感染症が一部の保育園で流行している。

学童のA群溶連菌咽頭炎がある。

その他の登録する感染症は無い。外来患者数の増加はない。

#### ■ 中部地区(南本内科子どもクリニック)

RS様咳嗽例があるが現在、検査実施していないため確定例はない。

感染性腸炎は減少した。

学童の流行性耳下腺炎が1例あった。ほかの感染症は少ない。

#### ■ 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RSウイルス、ノロウイルス感染の流行は減少してきた。昨年は少なかつた手足口病等の夏カゼが見えられた。

全体には急性感染症は少ない。

### ◆ 変異株陽性者数・PCR検査の実施状況 ◆

検査実施週	変異株PCR検査数		変異株陽性者数		国立感染症研究所におけるゲノム解析結果 (判明数のみ)		
	(R) スクリーニング検査	(P) 疑い陽性	(R) スクリーニング検査	(P) 疑い陽性	英国	南アフリカ	ブラジル
3月5日～5月2日	957	862	95	751	665	86	0
5月3日～5月9日	189	190	0	179	0	34	0
5月10日～5月16日	155	155	0	143	0	16	0
5月17日～5月23日	1491	1396	95	1250	1184	86	0
合計	1491	1396	95	1250	359	0	0

スクリーニング検査:検査可能なCT値35以下の検体を対象に検査を実施(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)  
 疑い検査 :変異株陽性患者の接触者を対象に検査を実施  
 解析不能 :変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののうち、ウイルス遺伝子のコピー数が少なく、解析不能であった数

# 奈良県感染症情報

今週の概要  
 ・ 新型コロナウイルスの副反応について  
 ・ 変異株PCR検査の実施状況

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	RSウイルス感染症	10.65	(9.76)	↑↑	↑↑	↓
2	感染性胃腸炎	3.76	(3.18)	↑	→	→
3	咽頭結膜熱	0.85	(0.35)	↑↑	↑↑	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	0.47	(0.35)	→	→	↓
5	突発性発しん	0.32	(0.53)	↑	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

## ◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症報告数が、さらに増加を続けており、流行しています。また、咽頭結膜熱についても報告が増加してきており、これから夏の時期にかけて流行する感染症にも注意が必要です。  
 第21週における新型コロナウイルス感染症の県内新規感染者数は150名と大幅に減少しており、県内の感染状況は、緊急対応措置実施前に比べて、改善してきました。しかしながら、周辺府県を含めて全国の感染状況は、まだまだ平準を計らない状況にあります。奈良県は、特に大阪府の感染動向に大きな影響を受け、近隣府県の緊急事態宣言の延長に伴い、奈良県への感染の波及を最小限におさえ、また、県内の感染拡大抑制を図る目的として、県独自の緊急対応措置が6月20日まで延長となりました。引き続き、緊張感をもって感染防止対策を継続してまいります。

## ◆ 新型コロナウイルスの副反応について ◆

現在、日本で接種が進められている新型コロナウイルスでは、接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。また、稀な頻度でアナフィラキシー(急性のアレルギー反応)が発生したことが報告されています。もし、アナフィラキシーが起きたときには、接種会場や医療機関ですぐに治療を行うことになります。  
 奈良県では、新型コロナウイルスの副反応に関する相談に対応するためのコールセンターを開設しています。ワクチン接種後にご心配なことがあれば、奈良県新型コロナウイルス副反応コールセンターへお問い合わせください。

出典: <http://www.pref.nara.jp/58099.htm> (奈良県)

## ◆ 変異株陽性者数・PCR検査の実施 ◆

検査実施週	変異株陽性者数		PCR検査回数		変異株陽性率	国立感染症研究所におけるゲノム解析結果 (判別率のみ)
	(陽性者数)	(検査回数)	(陽性者数)	(検査回数)		
3月5日～5月9日	1147	930	844	86	73.9%	解析不能
5月10日～5月16日	189	189	0	44	0%	28
5月17日～5月23日	155	155	0	11	0%	0
5月24日～5月30日	70	70	0	68	0%	3
合計	1561	1465	95	1318	6.0%	40

スクリーニング検査: 検査可能なCT値以下の検体を対象に検査を実施(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)  
 陽性検査: 変異株陽性患者の検体を対象に検査を実施  
 解析不能: 変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののうち、ウイルス遺伝子のコピー数が少なく、解析不能であった数

# 奈良県感染症情報

今週の概要  
 ・ 小児科外来情報  
 ・ 変異株PCR検査の実施状況

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	RSウイルス感染症	7.38	(10.65)	↑	→	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.03	(3.76)	→	→	→
3	咽頭結膜熱	0.79	(0.85)	↑	→	↑↑
4	突発性発しん	0.32	(0.32)	→	→	↓
5	手足口病	0.21	(0.18)	↑	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

## ◆ 県内概況 ◆

RSウイルスの感染症の報告数は、引き続き高い水準で推移しています。また、夏に流行する感染症である咽頭結膜熱や手足口病の報告数も増加しています。流水と石けんによる手洗い、タオルやおもちゃの共有を避けるなど、感染予防対策に努めましょう。  
 第22週の新型コロナウイルス新規感染者数は133名と少しずつ減少しています。飛沫感染を防ぐためのマスク着用、マイクログlobus感染を防ぐための換気、そして接触感染を防ぐために手指やモノの消毒や洗浄を行うなど、ここで油断することなく注意を継続し、更なる改善へご協力をお願いします。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北部地区(田中小児科医療)

外来患者数がやや増えています。  
 感染性胃腸炎が増えている。嘔吐が主体で、水様性下痢が目立たない患児も多い。  
 各種迅速検査が陰性で、5日程発熱が続く例が散見される。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加。発熱、咳嗽の幼児が多い。RSVが流行中で同他例もあった。  
 感染性腸炎の流行が持続。水様下痢例もあった。流行性耳下腺炎が数例あった。  
 水痘、ヘルパンギーナ、手足口病等は今春見られていない。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RSウイルス感染症、肺炎球菌感染症が増加している。肺炎球菌感染症は予防接種済みの幼児も感染し、肺炎併発入院事例もみられる。感染性胃腸炎の流行は継続、ノロウイルス感染に加え、各種迅速検査に反応しないウイルス性胃腸炎疑いが増加している。

COVID-19の小児例も散見されている。家庭での感染で、保育所でのクラスターには至っていない。

## ◆ 変異株陽性者数・PCR検査の実施状況 ◆

検査実施週	変異株陽性者数		PCR検査回数		変異株陽性率	国立感染症研究所におけるゲノム解析結果 (判別率のみ)
	(陽性者数)	(検査回数)	(陽性者数)	(検査回数)		
3月5日～5月16日	1336	1241	95	1107	10.2%	解析不能
5月17日～5月23日	165	165	0	143	0%	37
5月24日～5月30日	70	70	0	68	0%	0
5月31日～6月6日	51	51	0	46	0%	1
合計	1612	1517	95	1364	6.0%	44

スクリーニング検査: 検査可能なCT値35以下の検体を対象に検査を実施(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)  
 陽性検査: 変異株陽性患者の検体を対象に検査を実施  
 解析不能: 変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののうち、ウイルス遺伝子のコピー数が少なく、解析不能であった数





# 奈良県感染症情報

令和3年 第23週(6月7日～6月13日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 新型コロナウイルス変異株の呼称について
- 変異株 PCR 検査の実施状況
- 5月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	5.21	(7.38) ↓	→	→	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.03	(4.03) →	↑	→	→
3	咽頭結膜熱	0.68	(0.79) ↓	↑	↑	↑↑
4	突発性発しん	0.65	(0.32) ↑	↑↑	→	↑↑
5	手足口病	0.41	(0.21) ↑↑	↑	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや増加** **増加** **急増** **急増** **急増** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

## ◆ 県内概況 ◆

子どもの夏風邪の一つである咽頭結膜熱や手足口病の報告が、過去5週間平均数と比べて増加しています。咽頭結膜熱は、プールの水を介して目の粘膜から感染することもあるため、プール熱とも呼ばれています。発熱、喉の痛みや結膜充血がおこる病気で、予防には手洗い・やがいが有効です。

第23週の新型コロナウイルス新規感染者数は68名と、前週より減少しています。しかし、日本国内では、感染率が高いと言われている B.1.617.2 系統の変異株(デルタ株)が増加しつつあります。感染予防には、従来と同様に、3つの密の回避、特に会話時のマスクの着用、手洗いの徹底が重要です。感染者の発生が減ってきたからと油断せず、換気の徹底やマスクの着用など、引き続き、感染対策を実践しましょう。

## ◆ 新型コロナウイルス変異株の呼称について ◆

令和3年5月31日、WHO(世界保健機関)により、新型コロナウイルスの変異株の新たな呼称が発表されたことを受け、令和3年6月11日10時時点で国立感染症研究所がVOC(懸念される変異株、Variant of Concern)に分類しているものは以下のようになっています。

WHO ラベル	PANGO 系統	最初の検出	主な変異
アルファ株	B.1.1.7 系統の変異株	2020年9月 英国	N501Y
ベータ株	B.1.351 系統の変異株	2020年5月 南アフリカ	N501Y, E484K
ガンマ株	P.1 系統の変異株	2020年11月 ブラジル	N501Y, E484K
デルタ株	B.1.617.2 系統の変異株	2020年10月 インド	L452R

## ◆ 変異株陽性者数・PCR 検査の実施状況 ◆

検査実施週	16011変異株陽性者数		N501Y変異株陽性者数		国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(検出数)		解析不能
	30年代	40年代	7/127株	7/127株	ゲノム解析結果(判明数のみ)	解析不能	
3月1日～5月21日	1401	1390	95	1200	1164	81	43
5月22日～6月30日	70	71	0	68	0	0	0
5月1日～6月10日	51	51	0	46	0	5	0
6月1日～6月13日※	32	32	0	29	0	0	0
合計	1644	1594	95	1393	1164	86	43

スクリーニング検査: 検査可能なCT値35以下の検体を可能な検査を実施(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)  
 陽性検査: 変異株陽性患者の濃厚接触者に対して検査を実施  
 解析不能: 変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののみ、ウイルス遺伝子のコピー数が少なく、解析不能であった数  
 ※上記の他、6月7日～13日の間に民間検査機関が、インフルエンザに類似した変異株が有するL452R変異株PCR検査を実施した5検体は、全陽性でした。  
 ○L452R変異株検査の実施状況については、来週以降の週報でN501Y変異株検査実施状況に代えて掲載予定です。



# 奈良県感染症情報

令和3年 第24週(6月14日～6月20日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- L452R変異株 PCR 検査(スクリーニング検査)の実施状況

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	5.44	(5.21) ↓	→	→	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.00	(4.03) →	↑	→	→
3	咽頭結膜熱	0.82	(0.68) ↑	↑	↑	→
4	突発性発しん	0.41	(0.65) ↓	↑	→	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.26	(0.29) ↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

## ◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱の報告が、前週から引き続き増加しています。咽頭結膜熱は特別な治療法はありませんが、ほとんど自然に治ります。頭痛の強いとき、吐き気、せきが増えるときは医療機関に早めに相談してください。

第24週の新型コロナウイルス新規感染者数は82名と前週の68名から増加しました。県内でもインドで最初に検出された変異株であるデルタ株が初めて確認されました。今後の感染拡大を防止するためには、変異株であっても、3密(密集・密接・密閉)の回避や、マスクの着用、手洗いなどが、これまでと同様に有効ですので引き続き、感染対策を実践しましょう。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### ■ 北部地区(田中小児科医院)

外来患者数は増加傾向です。  
 感染性胃腸炎はウイルス性が主体ですが、2例のカンピロバクテラ陽炎があった。  
 幼児のRSウイルス感染症はまだ多い。  
 アデノウイルス陽炎の後、多形滲出性紅斑を認めた例があった。

### ■ 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来患者はやや増加。発熱、咳嗽例が多い。  
 幼児でRS感染症が流行中。アデノウイルスの高熱例が増加。水様便を呈する感染性腸炎も続いてみられる。  
 嘔吐のノロウイルス例はやや減少した。手足口病が1例あった。

### ■ 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

RSウイルス感染症が乳児～幼児で流行している。入院必要例も多い。  
 手足口病も散見されている。ノロウイルス胃腸炎は減少してきた。

## ◆ L452R 変異株 PCR 検査(スクリーニング検査)の実施状況 ◆

県では、厚生労働省の通知に基づき、6月14日の週から、N501Y 変異株 PCR 検査に代わりデルタ株等が有する L452R 変異株 PCR 検査を実施しています(6月7日～13日の検査は民間検査機関による検査です)。

検査実施週	L452R変異株 PCR検査数	L452R変異株 陽性者数	国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判明数のみ)		ゲノム解析不能
			デルタ株	ゲノム解析結果(判明数のみ)	
6月7日～6月13日	3	-	3	-	-
6月14日～6月20日	5	0	-	-	-
計	34	2	0	0	0
計	39	2	3	0	0

デルタ株: インドで最初に検出された変異株  
 ※N501Y 変異株 PCR 検査を実施し、陰性であった3検体は国立感染症研究所へ送付しゲノム解析した結果、すべてデルタ株であったとの報告が6月21日ありました。

# 奈良県感染症情報

◆ 新型コロナウイルス接種後における市販解熱鎮痛剤の使用について  
 ◆ L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減			
1	RSウイルス感染症	5.56	(5.44) ↓	→	→	↑
2	感染性胃腸炎	3.47	(4.00) →	↑	→	→
3	突発性発しん	0.56	(0.41) ↑	↑	↑	→
4	咽頭結膜熱	0.41	(0.82) ↓	→	→	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.21	(0.26) ↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

## ◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症の報告が、依然高い水準で推移しています。主な症状は発熱や鼻水、咳ですが、乳幼児など年齢が低いことも肺炎を併発することもあり、重症化する前に早めに受診してください。  
 第25週の県内新型コロナウイルス新規感染者数は122名と前週に続き増加しており、リバوند兆候が見受けられます。ワクチン接種が進んでおり、ワクチンを受けた方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、他人への感染がどの程度予防できるかはまだ十分にはわかっていません。ワクチン接種後であっても、引き続き、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いいたします。

## ◆ 新型コロナウイルス接種後における市販解熱鎮痛剤の使用について ◆

ワクチンを受けた後の発熱や痛みは、接種後1～2日以内に起こることが多く、必要な場合は解熱鎮痛薬を服用するなどして、様子を見ていただくこととなります。  
 市販されている解熱鎮痛薬の種類には、アセトアミノフェンや非ステロイド性抗炎症薬(イブプロフェンやロキソプロフェン)などがあり、ワクチン接種後の発熱や痛みなどにご使用いただけます。(アセトアミノフェンは、低年齢の方や妊婦中・授乳中の方でもご使用いただけますが、製品毎に対象年齢などが異なりますので、対象をご確認のうえ、ご使用ください。)

なお、ワクチンを受けた後、症状が出る前に、解熱鎮痛薬を予防的に繰り返し服用することについては、現在のところ推奨されていません。  
 出典: <https://www.mhlw.go.jp/q/a/0007.html> (厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議)

特に下記のような場合は、主治医や薬剤師にご相談ください。  
 ・他のお薬を内服している場合や、妊娠中、授乳中、高齢、胃・十二指腸潰瘍や腎機能低下など病気の治療中の場合(飲める薬が限られていることがあります)  
 ・薬などによりアレルギー症状やげんそくを起こしたことがある場合  
 ・激しい痛みや高熱など、症状が重い場合や、症状が長く続いている場合  
 ・ワクチン接種後には典型的でない症状がみられる場合(ワクチン接種後に起こりやすい症状や起こりにくい症状については、<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/q/a/0006.html> をご覧ください)

## ◆ L452R 変異株 PCR 検査(スクリーニング検査)の実施状況 ◆

県では、厚生労働省の通知に基づき、6月14日の週から、N501Y変異株PCR検査に代わりデルタ株等が有するL452R変異株PCR検査を実施しています(6月7日～13日の検査は民間検査機関による検査です)。

検査実施週	L452R変異株PCR検査数	L452R変異株陽性者数	国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判明数のみ)	
			デルタ株	解明不能
6月7日～6月13日	3	-	3※	-
6月14日～6月20日	5	0	-	-
6月21日～6月27日	34	2	0	0
計	79	2	3	0

デルタ株: イントで最初に検出された変異株  
 ※N501Y変異株PCR検査を実施し、陰性であった3検体を国立感染症研究所へ送付しゲノム解析した結果、すべてデルタ株であるとの報告が6月21日ありました。

# 奈良県感染症情報

◆ 小児科外来情報  
 ◆ L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減			
1	RSウイルス感染症	5.35	(5.56) ↓	→	→	↑
2	感染性胃腸炎	3.74	(3.47) →	→	→	→
3	突発性発しん	0.41	(0.56) →	→	→	→
4	咽頭結膜熱	0.35	(0.41) ↓	→	→	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.21	(0.21) ↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

## ◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症の報告は、引き続き高い水準で推移しています。RSウイルス感染症は、2歳までにはほぼ100%の児が初感染すると言われており、2歳以下の乳幼児からの報告が多く占めていますが、3歳以上の年長児からの報告も多くなっています。日頃から、手洗い・咳エチケットを心がけましょう。

第26週の新型コロナウイルス新規感染者数は97名と前週より減少しています。6月下旬は飲食店でのクラスターが発生しました。飲食店での長時間の滞在は控え、会話の際はマスクの着用を徹底しましょう。また、換気がよく、座席間の距離も十分に、適切にアクリル板も設置され、混雑していない店を選びましょう。引き続き、職場・家庭・家庭外で感染が連鎖しないよう、感染防止対策をお願いします。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### ◆ 北部地区(田中小児科医院)

発熱児が増えています。  
 嘔吐を主症状とする感染性胃腸炎は減少してきました。明確なヘルパンギーナや手足口病は無い。  
 A群溶連菌感染症とRSウイルス感染症がある。

### ◆ 中部地区(福本内科子どもクリニック)

外来数は増加。発熱例が増加。近保育園でコロナ感染児が発生し、全員PCR陰性を確認したとのことであるが、その後も同園からの発熱児が数名来院している。  
 RSV様気管支炎も流行持続。感染性腸炎も流行。流行性耳下腺炎例が1例あった。

### ◆ 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

RSウイルス感染症の流行が続いている。また、肺炎球菌感染症やマイコプラズマ感染症も散見される。  
 COVID-19感染症については、小児で家庭での感染がみられるも軽症で例数も減少している。  
 蕁麻疹様の発疹を伴う感染症が数例みられた。対症療法のみで軽快し、色素沈着や合併症はみられない。

## ◆ L452R 変異株 PCR 検査(スクリーニング検査)の実施状況 ◆

検査実施週	L452R変異株PCR検査数	L452R変異株陽性者数	国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判明数のみ)	
			デルタ株	解明不能
6月7日～6月20日	3	-	3※	-
6月21日～6月27日	39	2	0	0
6月28日～7月4日	39	0	0	0
計	140	3	3	0

デルタ株: イントで最初に検出された変異株  
 ※N501Y変異株PCR検査を実施し、陰性であった3検体を国立感染症研究所へ送付しゲノム解析した結果、すべてデルタ株であるとの報告が6月21日ありました。



# 奈良県感染症情報

令和3年 第27週(7月5日～7月11日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(6月)
- L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	3.76	(5.35)	→	→	→
2	感染性胃腸炎	2.94	(3.74)	→	→	→
3	咽頭結膜熱	0.35	(0.35)	→	→	→
4	突発性発しん	0.32	(0.41)	→	→	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.24	(0.21)	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況

第27週の新型コロナウイルス新規感染者数は87名と前週の97名より減少しているものの、下げ止まりの状況が続いています。引き続き、マスクの着用、手洗いの励行など、感染防止策の徹底をお願いします。

気温が高くなる夏には肌露出が増え、病原体を媒介する蚊やダニに刺されたり、咬まれたりする危険性が高まることが予想されますので、野外キャンプ等に出かける場合にはどの地域においても注意が必要です。特に「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」は、国内での発生報告数も多く、死亡事例も報告されています。病原体を保有するマダニに咬まれることで感染するため、草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくしましょう。



出典:厚生労働省 HP(https://www.nhi.go.jp/stf/sei/sakumi/tsui/te/tunya/0000164495.html)  
 ©あいら・芳文社「野外活動委員会」

### ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和3年6月)

検出病原体	*ウイルス分離同定日での集計結果				臨床診断名
	北部	中部	南部	その他	
ヒトヘルペス	7	1	2		劇症型心筋炎(1)、無菌性髄膜炎(2)*
サイトメガロ			1		無菌性髄膜炎(1)*

※重症感染

### ◆ L452R 変異株 PCR 検査(スクリーニング検査)の実施状況

検査実施週	L452R変異株 PCR検査数	L452R変異株 陽性者数	国立感染症研究所における ゲノム解析結果 (詳細解析のみ)		ゲノム解析結果(不明)が、陽性不能
			デルタ株	3*	
6月7日～7月4日	3	-	3*	-	-
6月27日～7月4日	76	2	1	0	0
6月28日～7月4日	62	1	0	0	0
7月5日～7月11日	20	0	0	0	0
計	160	3	4	0	0

デルタ株:インデで最初に検出された変異株  
 ※N501Y 変異株 PCR 検査を実施し、陰性であった3検体を国立感染症研究所へ送付しゲノム解析した結果、すべてデルタ株であるとの報告が6月21日ありました。



# 奈良県感染症情報

令和3年 第28週(7月12日～7月18日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	4.97	(3.76)	→	→	→
2	感染性胃腸炎	2.31	(2.94)	→	→	→
3	突発性発しん	0.49	(0.32)	→	→	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.29	(0.35)	→	→	→
5	ヘルパンギーナ	0.20	(0.12)	↑	↑	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況

第28週の新型コロナウイルス新規感染者数は130名と前週の87名から増加しました。RSウイルス感染症の報告は引き続き高い水準で推移しています。

気温が高くなってきましたがマスクを着用しているという状況と比べ、心拍数や呼吸数、体感温度などが上昇するなど、身体に負担がかかっていることがあります。高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、マスクをはずすようにしましょう。マスクを着用する場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけましょう。外出時は暑い日や時間帯を避け、涼しい服装を心がけましょう。

### ◆ 小児科外来情報

#### ■ 北部地区(田中小児科医療)

RSウイルス感染症は多く、減少傾向が見られない。  
 クループ様咳の患児(RSは陰性)が複数いた。ウイルス性胃腸炎は少なくなった。  
 発熱を伴う発疹があるが、ウイルス検査などの確定診断に至っていない。

#### ■ 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加していない。  
 感冒症状もやや減少。RS感染例も減少した。  
 感染性腸炎が少し。手足口病、ヘルパンギーナ等は見られない。

#### ■ 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

RSウイルスの流行が続いている。乳児以外でも幼児の重症例がみられる。また遷延する呼吸器症状者では、肺炎球菌感染症も散見されている。  
 手足口病、ヘルパンギーナの流行はないが、ウイルス性発疹症(原因ウイルス不詳)やウイルス性胃腸炎が増加しつつある。対症療法で軽快している。

### ◆ L452R 変異株 PCR 検査(スクリーニング検査)の実施状況

検査実施週	L452R変異株 PCR検査数	L452R変異株 陽性者数	国立感染症研究所における ゲノム解析結果 (詳細解析のみ)		ゲノム解析結果(不明)が、陽性不能
			デルタ株	3*	
6月7日～7月4日	3	-	3*	-	-
6月27日～7月11日	140	3	1	0	0
7月5日～7月18日	45	3	0	0	0
計	205	6	4	0	0

デルタ株:インデで最初に検出された変異株  
 ※N501Y 変異株 PCR 検査を実施し、陰性であった3検体を国立感染症研究所へ送付しゲノム解析した結果、すべてデルタ株であるとの報告が6月21日ありました。

次回週報(第28週)は、令和3年7月26日(月)午後1時に発行いたします。





# 奈良県感染症情報

令和3年 第29週(7月19日～7月25日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 飲食店等の利用における感染防止対策について
- L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況
- 6月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬耐性菌感染症)の状況

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RSウイルス感染症	3.86	(4.97)	↓	→	→	↓
2	感染性胃腸炎	2.09	(2.31)	↓	→	→	↓
3	咽頭結膜熱	0.26	(0.29)	↓	→	→	↓
3	突発性発しん	0.26	(0.49)	↓	→	→	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	0.20	(0.17)	↑	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆県内概況◆

本週において、保育施設での腸管出血性大腸菌感染症の集団発生事例の報告が溢りました。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌の多発期として、注意が必要です。対策として、食肉は十分加熱し、バーベキューの際のトングの使い分けも重要です。また、ヒカからヒトへの二次感染を予防するために、食事前、トイレ使用后、排泄物処理作業の後などには石けんと流水による手洗いを行い、入浴の順番(下痢等の症状のある人は最後に)も留意して下さい。

第29週の県内新型コロナウイルス新規感染者数は161名と7月上旬から増加に転じており、再び感染拡大の兆しが見られるため、注意が必要です。これから、連休や夏休みで、移動・交流の機会が多くなりますが、夏休みは、県内で家族と過ごし、帰省する前は、余暇活動を控え、帰省したら、家族で静かに過ごしましょう。また、ふだん同居していない人とマスクをはずした状態での対面は、避けましょう。

### ◆飲食店等の利用における感染防止対策について◆

以下の点に注意して、感染リスクを下げる会食をお願いします。

感染防止対策を実施する飲食店・宿泊施設を、県が認証しています。

認証を取得した店舗、施設の情報、

県ホームページ <https://corona.ninsho.pref.nara.jp/>で、適切な感染防止対策が行われている店舗、が紹介されています。お店、お宿選びの参考にしてください。



### ◆L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況◆

検査実施週	L452R変異株PCR検査数	L452R変異株陽性者数	国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判別数のみ)		
			ゲノム解析結果(判別数のみ)	ゲノム解析結果(判別数のみ)	ゲノム解析結果(判別数のみ)
6月7日～7月11日	3	3	3	0	0
7月12日～7月18日	180	3	1	0	0
7月19日～7月25日	45	3	0	0	0
計	228	7	4	0	0

ゲノム解析: インデで最初に検出された変異株  
 ※N501Y変異株PCR検査を実施し、陰性であった3検体を国立感染症研究所へ送付しゲノム解析した結果、すべてゲノム解析結果と一致した結果が6月21日ありました。



# 奈良県感染症情報

令和3年 第30週(7月26日～8月1日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RSウイルス感染症	2.91	(3.86)	↓	→	→	↓
2	感染性胃腸炎	2.65	(2.09)	↑	→	→	↑
3	突発性発しん	0.44	(0.26)	↑	→	→	↓
4	咽頭結膜熱	0.21	(0.26)	↓	→	→	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	0.09	(0.20)	↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆県内概況◆

第30週の新型コロナウイルス新規感染者数は377名と、前週の161名の2倍以上に増加しました。全国的な感染拡大が始まり、奈良県及び周辺地域においても、特に大阪など都市部を中心に、爆発的な勢いで感染者が増加しています。奈良県では「緊急対処措置」を大阪府に併せて、及び京都府・兵庫県における「まん延防止等重点措置」の実施期間にあわせて、8月31日まで延長することとなりました。緊急事態宣言適用区域など感染が拡大している地域への不要不急の往来は避け、仕事や学校でそのような地域に行くときでも、寄り道をせず帰るようにしましょう。これからお盆の時期となりますが、帰省する場合は、家族で静かに過ごしましょう。また、普段同居していない人と、マスクを外した状態での対面や多人数での長時間の飲食は避けましょう。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

夏休みにより、受診者は減少している。  
 ヘルパンギーナや手足口病は無い。RSウイルス感染症も減少傾向。  
 乳児の帯状ヘルペスが少なかった。

#### 中部地区(南内科こどもクリニック)

発熱、咳の例があるが軽症。感染性腸炎の流行もあり、幼児で水様便例が僅かに見られた。  
 例年夏風邪の流行時期であるが今夏はほとんど見られない。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RSウイルスの流行は落ちついてきている。夏カゼウイルスと思われるウイルス性発疹症は散発。手足口病やヘルパンギーナの大きな流行はみられない。  
 胃腸炎は増加傾向にあるも、軽症で経過している。

### ◆L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況◆

検査実施週	L452R変異株PCR検査数	L452R変異株陽性者数	国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判別数のみ)		
			ゲノム解析結果(判別数のみ)	ゲノム解析結果(判別数のみ)	ゲノム解析結果(判別数のみ)
6月7日～7月11日	3	3	3	0	0
7月12日～7月18日	205	6	3	0	0
7月19日～7月25日	33	1	1	0	0
7月26日～8月1日	88	20	0	0	0
計	336	27	7	0	0

ゲノム解析: インデで最初に検出された変異株  
 ※N501Y変異株PCR検査を実施し、陰性であった3検体を国立感染症研究所へ送付しゲノム解析した結果、すべてゲノム解析結果と一致した結果が6月21日ありました。



# 奈良県感染症情報

令和3年 第31週(8月2日～8月8日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.79	(2.65) →	→	→	→
2	RSウイルス感染症	2.41	(2.91) ↓	→	→	→
3	突発性発しん	0.41	(0.44) →	→	→	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.35	(0.21) ↑	↑	↑	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	0.18	(0.09) →	→	→	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆県内概況◆

第31週の新型コロナウイルス新規感染者数は584名と前週の377名から、大きく増加しました。また、第31週に変異株(デルタ株)に関するスクリーニング検査を実施した検体196件のうち、半数を超える110件がデルタ株疑い(L452R陽性)となっており、当県でもデルタ株の感染者数が大きく増加している可能性があります。変異株は、強い感染力を有していますが、個人の基本的な感染予防策(3密(密集・密接・密閉)や特 にリスクの高い5つの場面(飲酒を伴う懇親会等・大人数や長時間に及ぶ飲食・マスクなしでの会話・狭い空間での共同生活・居場所の切り替わり)の回避、適切なマスクの着用、手洗いの徹底などが、これまでと同様に有効です。県民の皆様には、これまで以上に感染予防策の徹底へのご協力をお願いいたします。



出典: 内閣府HP(新型コロナウイルス感染症対策)<https://corona.go.jp/proposal/>

### ◆L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況◆

検査実施週	L452R変異株PCR検査数	国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判断数のみ)		陽性者数
		デルタ株	陽性者数	
6月7日～7月25日	3 238	3	7	-
7月26日～8月1日	98	4	20	0
8月2日～8月8日	196	0	110	0
計	532	7	137	0

デルタ株:インデで最初に検出された変異株  
 ※N501Y変異株PCR検査を実施し、陰性であった3検体を国立感染症研究所へ送付しゲノム解析した結果、すべてデルタ株であるとの報告が6月21日ありました。



# 奈良県感染症情報

令和3年 第32週(8月9日～8月15日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況
- 7月報(月単位)報告対象疾患(特感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.79	(2.79) ↓	→	→	→
2	RSウイルス感染症	1.59	(2.41) ↓	→	→	→
3	突発性発しん	0.32	(0.41) →	→	→	→
4	咽頭結膜熱	0.18	(0.35) ↓	→	→	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.15	(0.18) →	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆県内概況◆

第32週の新型コロナウイルス新規感染者数は752名と前週の584名から引き続き大きく増加しました。また、第32週に変異株(デルタ株)に関するスクリーニング検査を実施した検体224件のうち、8割近くの176件がデルタ株疑い(L452R陽性)となっています。

大阪など都市部を中心に爆発的な勢いで新型コロナウイルスの感染者が増加し本県でも感染者の増加が顕著になっていることから、感染の連鎖を断ち切るよう、買い物や食事、レジャーなど、不要不急の大飯との往來は避け、仕事や学校で大阪に行くときでも、寄り道せず帰省帰郷等、高い危機意識を持ち続けながら、感染拡大を抑え、全力で命を守る取組の徹底をお願いします。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医療)

お盆の休診のため診察日は少ないが、その中でRSウイルス感染症が多く見られた。  
 アデノウイルス感染症もあつた。

#### 中部地区(南本内科こどもクリニック)

発熱例、咳嗽例がやや増加。気管支炎様で紹介入院例もある。

Covid19は検査実施していないので発生状況は不明。感染性腸炎も続いてみられる。

夏風邪はほとんどない。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症急増。英会話スクールや小学校の開放教室でも複数名陽性者あり。発熱遷延の1歳児や川崎病様症状例もあり。

従来の夏カゼの大きな流行はみられていない。

### ◆L452R変異株PCR検査(スクリーニング検査)の実施状況◆

検査実施週	L452R変異株PCR検査数	国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判断数のみ)		陽性者数
		デルタ株	陽性者数	
6月7日～8月1日	3 338	3	7	-
8月2日～8月8日	196	0	110	0
8月9日～8月15日	224	0	176	0
計	756	10	313	0

デルタ株:インデで最初に検出された変異株  
 ※N501Y変異株PCR検査を実施し、陰性であった3検体を国立感染症研究所へ送付しゲノム解析した結果、すべてデルタ株であるとの報告が6月21日ありました。